

衛生学実習

責任者名：田中 秀樹

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：実習

◆担当教員

田中 秀樹(衛生学 准教授)

川戸 貴行(衛生学 教授)

中井 久美子(衛生学 助教)

尾崎 愛美(衛生学 助教)

本橋 正史(衛生学 兼任講師)

小口 久雄(衛生学 兼任講師)

唐鎌 史行(衛生学 兼任講師)

鳥越 博貴(衛生学 兼任講師)

吉原 由嗣(衛生学 兼任講師)

原田 修成(衛生学 兼任講師)

佐藤 節子(衛生学 兼任講師)

菅谷 敦人(衛生学 兼任講師)

岡 仁(衛生学 兼任講師)

飯田 隆文(衛生学 兼任講師)

両角 旦(衛生学 兼任講師)

木村 明美(衛生学 兼任講師)

北見 聡(衛生学 兼任講師)

好士 亮介(衛生学 専修研究員)

◆一般目標 (GIO)

個人の特性に応じた継続的な口腔健康管理を行う為に、歯科健康診査、疫学指標を応用して行う調査、予防処置および歯科医療環境の管理について知る。

◆到達目標 (SBOs)

- ・集団健診における口腔診査法の基礎的な手順、姿勢、器具の使用を実施できる。
- ・健診によって得られたデータを用い、齲蝕および歯周病等の指標を集計することができる。
- ・齲蝕の予防法を理解し、正しく実施することが出来る。
- ・室内環境の管理の意義と方法を理解し、実施することが出来る。

◆評価方法

12月25日に実施する平常試験(50%)および提出物(20%)と実習態度(30%)で評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
田中 秀樹	水曜日 17:00~18:00 1号館衛生学講座	tanaka.hideki@nihon-u.ac.jp	
川戸 貴行	水曜日 17:00~18:00 1号館衛生学講座	kawato.takayuki@nihon-u.ac.jp	
中井 久美子	水曜日 17:00~18:00 1号館衛生学講座	nakai.kumiko@nihon-u.ac.jp	
尾崎 愛美	水曜日 17:00~18:00 1号館衛生学講座	ozaki.manami@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

第1~30回はグループに分かれて診査法および予防法について実習を行う。第31~39回は環境について実習を行う。

田中 秀樹：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から、歯科疾患の第1次、第2次、第3次予防の実際を、

また、労働衛生コンサルタントとしての立場から歯科診療所における環境保持の重要性を説明する。

川戸 貴行：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から、歯科疾患の第1次、第2次、第3次予防の実際を説明する。

中井久美子：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から、歯科疾患の第1次、第2次、第3次予防の実際を説明する。

尾崎 愛美：歯科医師として歯科の一般治療と予防処置ならびに学校歯科検診に従事した経験から、歯科疾患の第1次、第2次、第3次予防の実際を説明する

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書1	衛生学・口腔衛生学実習書	川戸貴行, 前野正夫, 本橋正史 他	一世出版	2020
教科書2	口腔衛生学 2020	川戸貴行, 前野正夫, 本橋正史 他	一世出版	2020
参考書	生活と健康 - その考え方と測定法 -	荒川浩久 他	学建書院	2016
参考書	口腔保健・予防歯科学	安井利一 他	医歯薬出版	2017

DP4:コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し，その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを習得できる。

CP3:幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に，論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

◆準備学習(予習・復習)

事前に実習書と教科書を必ず読んで，当日の学修到達目標を理解しておくことはもちろんのこと，必ず予習しておくこと。

◆準備学習時間

準備学習に記載された事項に必要なだけの時間を充てて予習を行うこと。

各授業内容に相当する教科書等のページは，第1回講義開始前に提示する。

◆全学年を通しての関連教科

第3学年前期 口腔衛生学，公衆衛生学

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 3	B班	9.9	1 ～ 3	1. オリエンテーション 1)実習内容と各課題の習得の意義 2)実習の進行手順 3)健康診査の態勢 (1)診査手順・姿勢 (2)器具の使用法 (3)診査環境の設定 (教1) p.12~23 ・本実習は，第5実習室と第3講堂に分かれて行うため，A，Bをそれぞれ A1,A2,B1,B2に分けます。 ・班分け等の詳細は，第1回目の実習時にお知らせします。 ・第1回目の実習開始時の集合場所は，全員第5実習	・各実習課題の概要を説明できる。 ・各実習項目を習得する意義と目的を説明できる。 ・実習中の衛生管理など，実習の方法と注意事項を説明できる。 ・集団健診における口腔診査法の基礎的な手順，姿勢，器具の使用法および診査環境の設定を説明できる。	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理

				室です。			
1 ～ 3	A班	9.9	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
4 ～ 6	B班	9.16	1 ～ 3	<p>2. 集団口腔診査</p> <p>1) 集団健診における診査</p> <p>(1) 診査器具と態勢</p> <p>(2) 診査基準</p> <p>(3) 事後措置</p> <p>(4) 学校歯科健康診断における診査方法</p> <p>2) 調査研究のための診査</p> <p>(1) 歯を単位とする齲蝕の診査と結果の集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DMF 者率 ・ DMFT 指数 ・ DMF 歯率 <p>(2) 歯面を単位とする齲蝕の診査と結果の集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DMFS 指数 ・ DMF 歯面率 <p>(教1) p.12～23</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診査器具の使用法と診査態勢を説明できる。 ・ 学校の定期歯科健康診断における診査基準と記録方法を説明できる。 ・ 診査結果と事後措置の区分との関係を説明できる。 ・ 学校保健における齲蝕の診査結果から齲蝕に関する集団特性（齲蝕経験指標による）を求める方法を説明できる。 ・ 人，歯，歯面を単位として齲蝕の指標を求めるための診査，記録，集計の方法を説明できる。 ・ 齲蝕初期に視診で得られる所見について説明できる。 	衛生学	B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理
4 ～ 6	A班	9.16	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
7 ～ 9	B班	9.30	1 ～ 3	4-6回と同様	4-6回と同様	衛生学	B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理
7 ～ 9	A班	9.30	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様

10 ～ 12	B 班	10.7	1 ～ 3	<p>2. 集団口腔診査 2)調査研究のための診査 (3)歯周疾患の診査 ・PMA 指数(前歯部法) ・Gingival Index(GI)</p> <p>2)調査研究のための診査 (4)歯周疾患の診査 ・WHO の CPI</p> <p>(教1) p.25～34</p>	<p>・歯肉炎の評価に用いられる代表的な疫学指標である PMA 指数および GI の診査対象歯と診査基準, 集計方法を説明できる。</p> <p>・CPI の診査方法, 診査基準および集計方法を理解し習得することができる。</p> <p>・地域における歯周疾患の状況の評価で用いられる CPI の特徴を説明できる。</p>	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
10 ～ 12	A 班	10.7	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
13 ～ 15	B 班	10.14	1 ～ 3	10-12 回と同様	10-12 回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
13 ～ 15	A 班	10.14	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
16 ～ 18	B 班	10.21	1 ～ 3	<p>3. 患者におけるプラークコントロール</p> <p>1)歯口清掃習慣の診査 2)刷掃法 3)補助的歯口清掃法</p> <p>4. 齲蝕予防法 1)齲蝕活動性・食品の齲蝕誘発性</p>	<p>・歯口清掃習慣と清掃状態の診査方法 (OHI, OHI-S,PHP, PCR) を説明できる。</p> <p>・各種刷掃法の目的, 方法, 効果に関する特徴を説明できる。</p> <p>・デンタルフロスを中心に補助的歯口清掃法の使用目的・方法・効果を説明できる。</p> <p>・齲蝕活動性試験について, 各試験の意義と方法を説明できる。</p>	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理

				(1)齲蝕活動性試験 (教1) p.23~24, p.35~47 p.56~80			
16 ~ 18	A班	10.21	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
19 ~ 21	B班	10.28	1 ~ 3	第16-18回で行った『3.患者におけるプラークコントロール』について、実技試験形式で行い、フィードバックにより修得度をチェックする。 『4.齲蝕予防法』について、模擬事例をもとに考察及びレポートを作成することにより修得度をチェックする。	第16-18回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
19 ~ 21	A班	10.28	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様
22 ~ 24	B班	11.4	1 ~ 3	第19-21回と同様	第16-18回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
22 ~ 24	A班	11.4	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様	衛生学	上記と同様

25 ～ 27	B 班	11.11	1 ～ 3	4. 齲蝕予防法 2)フッ化物の応用 (1)フッ化物歯面塗布法 (2)フッ化物洗口法 (教1) p.82~96	・フッ化物の局所応用であるトレー法の術式を習得するとともに、齲蝕予防機序を説明できる。 ・フッ化物洗口法と洗口液の作成法を説明できる。 ・フッ化物の中毒量を知り、これを取り扱うために必要な知識を説明できる。	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
25 ～ 27	A 班	11.11	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
28 ～ 30	B 班	11.18	1 ～ 3	第 25-27 回と同様	第 25-27 回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理
28 ～ 30	A 班	11.18	5 ～ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
31 ～ 33	B 班	11.25	1 ～ 3	6. 歯科診療室の環境理 1)空気成分 (1)CO2 など 2)騒音・照明 3)温熱環境 (1)不快指数 (2)感覚温度 4)水質 (1)pH (2)残留塩素 (3)COD 班別（班分けは、実習時にお知らせ）に1)～4) いずれかの項目について詳細を学び、	・歯科診療室の環境管理の基本項目（空気成分・騒音・照明・温熱・水質）の評価方法を説明できる。 ・環境要因の生体への影響について説明できる。 ・各環境要因の基準について、特に室内環境の管理の意義と方法を説明できる。	衛生学	B-3-2)歯科疾患の予防と健康管理

				その内容を第 37~39 回に発表を 行う。 (教1) p.151~182			
31 ~ 33	A班	11.25	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
34 ~ 36	B班	12.2	1 ~ 3	・第37~39回に行 う発表に向けた資 料の準備を行う。	第31-33回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾 患の予防と健 康管理
34 ~ 36	A班	12.2	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
37 ~ 39	B班	12.16	1 ~ 3	・各班で作成した 資料を発表する。	第31-33回と同様	衛生学	B-3-2)歯科疾 患の予防と健 康管理
37 ~ 39	A班	12.16	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
40 ~ 42	B班	12.23	1 ~ 3	・第1~39回実習 の総括	・第1~39回の実習を通じて学修 した内容を演習形式で確認し、知識 と手技の定着ができる。	衛生学	B-3-2)歯科疾 患の予防と健 康管理
40 ~ 42	A班	12.23	5 ~ 7	上記と同様	上記と同様		上記と同様
43 ~ 45	A, B班	12.25	5 ~ 7	7.「平常試験」お よび振り返りシー トの作成	本実習の第1~42回に関する内容 と、前期で学んだ「口腔衛生学」、 「公衆衛生学」の中で本実習に関連 する内容について、マークシートお よび筆記形式の試験によって理解度 を確認する。また、振り返りシート の作成により理解度の確認及び習熟 を図る。	衛生学	B-3-2)歯科疾 患の予防と健 康管理

--	--	--	--	--	--	--	--

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
衛生学	1565	好士 亮介
	2000014	本橋 正史
	3000090	岡 仁
	3000091	小口 久雄
	3000093	唐鎌 史行
	3000094	佐藤 節子
	3000095	菅谷 敦人
	3000096	鳥越 博貴
	3000097	原田 修成
	3000098	吉原 由嗣
	3000100	飯田 隆文
	3000101	両角 旦
	3000102	木村 明美
	3000103	北見 聡
	1280	川戸 貴行
	1386	田中 秀樹
	2564	中井 久美子
	3097	尾崎 愛美